

三陸いわて
 漁師への道
 ガイドブック
 ~目で見える岩手の沿岸漁業~



三陸海岸は、宮古市付近から北側は隆起した断崖が連なり、南側は岬と深い入江が交互に形成されたりアス式海岸です。三陸沖は世界有数の漁場として知られ、親潮と黒潮、津軽暖流が1年を通じて複雑に交差しています。それにより海の中にも明確な四季がみられ、季節ごとに変化に富んだ漁業資源に恵まれ、さまざまな漁業が営まれてきました。

しかし、平成23(2011)年3月11日に発生した東日本大震災津波で、沿岸地域は甚大な被害を受けました。幸い水産資源には大きな影響はみられず、時を経て復旧・復興が進み、生産量はだいぶ戻ってきました。しかし、高齢化や人口減少などにより震災以前から減少傾向にあった漁業従事者の数は、被災をきっかけに大きく減少しました。

岩手県の重要な産業の1つである水産業を守り、そして発展させていくためには、漁業の担い手の確保・育成が大きな課題です。漁家の後継者だけでなく、外部から参入する仲間も増えてきており、そうした若者たちが将来の浜の大きな力となります。現在、沿岸全ての市町村に漁業就業希望者の受入れ組織がつくられ、さらには漁業研修機関のいわて水産アカデミーも開講されて、漁業経験や知識のない希望者への支援体制を整備してきました。

このパンフレットは「漁業を仕事にしたい」と考える人たちに、岩手県の漁業と就業への理解を深めていただくことを目的に作成しました。

さんりく岩手で漁師になりたい。そう考える、すべての人に贈ります。

Contents

岩手県で行われている主な沿岸漁業	04
海藻養殖漁家の暮らし	06
漁船漁業漁家の暮らし	10
岩手の漁業	14
漁師は「豊かな食」を支えている	23
いわて水産アカデミーで学ぼう	24
知っておきたい就業パターン・相談先	26
岩手県内の漁業就業に関する問い合わせ先一覧	27

岩手県で行われている 主な沿岸漁業

日本の海面漁業は、沿岸漁業、沖合漁業、遠洋漁業、養殖業の大きく4つに分けられます。沖合漁業は、2～3日で帰ることができる範囲の漁場で漁をします。遠洋漁業は、南太平洋や南アフリカ沖など、世界の海が仕事場です。

三陸という豊かな漁場が目の前にあることから、岩手県における主力は日帰りのできる沿岸漁業で、漁業者が自分たちの住んでいる場所の目の前の沖を仕事場にしています。育てて出荷する養殖業も沿岸漁業の1つで、複数の漁と養殖を兼業する漁業者が少なくありません。複合的な種目を営むことで、リスクの分散と安定収入につながります。

岩手県の沿岸では、複雑な海岸線を活かしてワカメやコンブなどの海藻、ホタテやカキなどの貝類、ホヤなどの海面養殖業をはじめ、大型定置網漁業や沿岸漁船漁業、アワビやウニ、海藻などをとる採介藻漁業が行われています。北部は漁船漁業と海藻養殖、中南部は漁船漁業と海藻養殖、貝類養殖が主力です。

岩手県の沿岸漁業は家族単位の小規模経営が中心という特徴がありますが、定置網漁業やサンマ棒受け網漁業、イカ釣り漁業などでは、会社に雇われて業務に携わる場合もあります。家族単位の経営でも忙しいときは家族ぐるみで作業をするほか少人数を雇う場合もありますが、普段は家族それぞれが別な仕事をしていたり農作業をしたりと、地域でさまざまな役割を担って活動しています。また、浜単位での共同作業や活動が多く、周囲の人たちとのつながりが強いのも岩手の特徴です。

主な養殖業



- コンブ
- ワカメ



- ホタテ
- カキ
- ホヤ
- エゾシカゲガイ



- サーモン

主な漁船漁業



- サンマ棒受け網
- イカ釣り
- イサダ漁(船曳網・棒受け網)
- かご
- 延縄(はえなわ)
- 刺し網



- アワビ
- ウニ
- その他(ナマコ、貝類、天然海藻類)

海藻養殖
漁家の暮らし

宮古市田老・摂待地区

畠山正広さん

Masahiro Hatakeyama

ワカメ・コンブを養殖する畠山さんは、岩手県指導漁業士として若い漁業者の指導や小中学校での出前授業など、担い手育成に努めているほか、田老町漁協青年部の一員として首都圏への水産物のPR活動にも参加しています。

自分で決めて、自分で稼ぐ ネットを使い広がる可能性

東京に10年ほど住んでいたという畠山さん。コンピュータ関係の仕事などを経て、「跡継ぎだから」と32歳でUターン。ほぼ1年を通じてワカメとコンブの養殖に加えて、無農薬での米作りも行っていて、この3つが大きな柱となっているとのこと。ほかに夏場のウニ漁などもあります。

ワカメの収穫期である3月～4月、コンブの収穫期の6月～8月が、1年で最も忙しい時期。夏のウニの口開けの日、コンブの作業を休んでウニ漁へ。年間の作業スケジュールは決まっていますが、海が荒れると船を出せないこともしばしば。そこがサラリーマンとは大きく異なることだと話します。

仕事をある程度、自分でコントロールできるようになったと感じるまでにかかった期間は約5年。「作業は1年に1回こっきりで、作業時間も限られている。季節も作業時間も限られ、繰り返してできないですから」と畠山さん。それでも、自然に手も体も動くようになり、面白味が生まれてきました。

これくらい儲けたいと自分で決めて、そのためにどうするかを考えて働き、ちゃんと入ってくるのが経営の醍醐味だという畠山さんは、ブログで発信もしています。「ネットを使って全国に届けることができる。漁業・農業にとってメリットが大きい」と考え、新しい展開へと挑戦するつもりです。



ワカメの収穫は、摂待漁港内にシートを敷いて作業。畠山家では、両親と妻、休みの日には子どもたちも参加。看護師をしている妻は、この時期だけ仕事を休むとのこと。さらに弟夫妻と、近所の人3人ほどを雇用して、全部で7～8人で作業します。



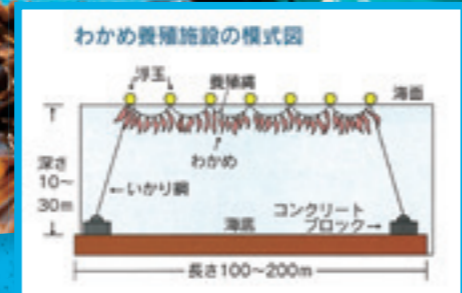
米作りは両親が中心ですが、畠山さんも自分で管理する田んぼを持っていて、無農薬で栽培。米はネット販売もしています。

ある日の畠山さんの1日 ～コンブ収穫期(7月の場合)～	
3:30	起床 海に出て養殖コンブを収穫
6:00	朝食・休憩
7:30	前日、洗って港内に吊しておいたコンブを切って 自宅にある乾燥小屋に運ぶ
9:00	乾燥小屋にコンブを並べて温風乾燥
11:00	昼食・休憩
13:00	明日の作業のための コンブを洗浄して港内に吊す
15:00	休憩
15:30	前日に乾燥したコンブを取り込み、 梱包
18:00	夕食・入浴
20:00	就寝



自宅にある乾燥小屋でコンブ乾燥作業(平干し作業)

海藻養殖



わかめ収穫は深夜から朝までの作業。茎から切る作業は人手が必要なので、弟との2人体制。夜中の12時に船を出て、養殖地点まで2往復。6時に岸壁にあげると、10時頃まで仕分け作業が続きます。11時頃、漁協のトラックが集荷して漁協の加工場でボイル塩蔵加工します。畠山さんが収穫するわかめは1日約1トン。田老町漁協のブランド「真崎わかめ」となって流通します。



わかめ

主な地域

久慈市～陸前高田市

仕事の概要

わかめは1年サイクルで収穫が行われます。岩手県は生産量が全国1位。波の荒い外海で育てた肉厚でツヤのある高品質なわかめの産地です。

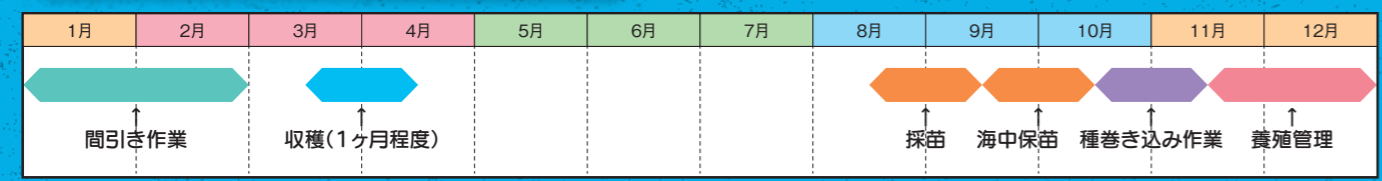
養殖は、8月頃のメカブから孢子を種糸に付ける採苗に始まり、11月頃に種糸を養殖ロープに巻き込み、本養殖がスタートします。年明けに間引き作業を行い、3月から4月にかけて収穫します。

収穫したわかめは、そのまま漁協に出荷する場合と、自らボイル釜で湯通してから塩蔵して製品の状態で出荷する場合があります。

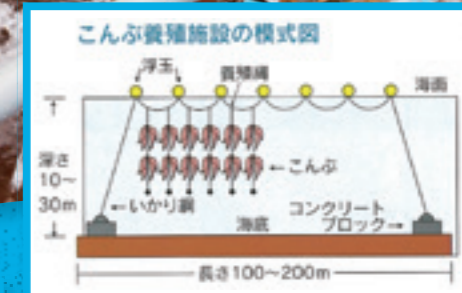
必要な資格など

養殖を営むには漁協の組合員になること。2級小型船舶操縦士以上。夜間の収穫もあることから無線免許、水揚げ作業のためフォークリフト、クレーン免許（玉掛け技能）もあったほうがよい。

畠山さんのわかめ年間作業カレンダー



海藻養殖



畠山さんは、わかめの種苗は自分で生産しますが、こんぶは漁協から購入。わかめを巻き終わったら、すぐにこんぶを差し込み作業をはじめます。水面間際で育てるわかめに対して、こんぶは2段で、わかめより深いところで育てます。収穫したこんぶは、自宅の敷地内にある乾燥小屋へ。平たい「平干し」と棒状の「棒干し」の2種類を作ります。



こんぶ

主な地域

普代村～宮古市（外洋エリア）

仕事の概要

こんぶは1年サイクルで収穫し、わかめと複合で行います。岩手の養殖干しこんぶは、ダシ用と食用の両方に向いているのが特色です。

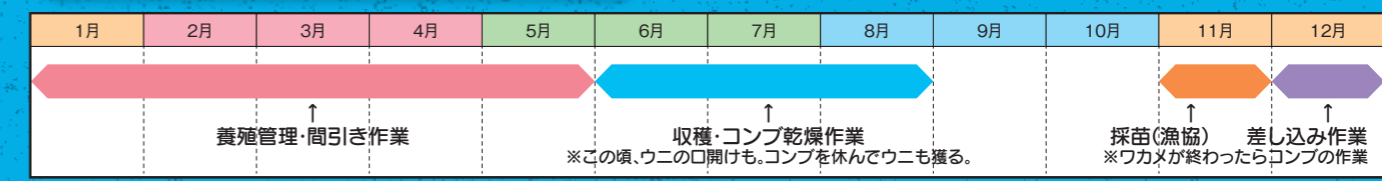
養殖は、漁協から促成種苗を購入して冬に種糸を養殖垂下ロープに挟み込み、本養殖が始まります。3月頃に間引き作業を行い、6月から8月にかけて収穫します。収穫したこんぶは洗浄して、各漁家にある乾燥小屋で温風乾燥。干しこんぶにして漁協に出荷します。

普代村と宮古市では、こんぶを裁断して乾燥するスキこんぶ、県中南部ではわかめのボイル加工に使う機器を利用して湯通し塩蔵製品にしています。

必要な資格など

養殖を営むには漁協の組合員になること。2級小型船舶操縦士以上。夜間の収穫もあることから無線免許、水揚げ作業のためフォークリフト、クレーン免許（玉掛け技能）もあったほうがよい。

畠山さんのこんぶ年間作業カレンダー



漁船漁業
漁家の暮らし

洋野町種市・宿戸地区

馬場清志さん

Kiyoshi Baba

漁船漁業の漁師である馬場さんは、岩手県青年漁業士として漁業者交流会や研修会などに参加し知見を深めています。また、宿戸漁業研究会として産直・朝市に参加し消費拡大にも務めています。

漁船漁業と潜りでフル稼働 魅力は「稼げる」こと

仙台市で建設関係の仕事にしていた馬場さんは、祖父が漁船漁業に携わっていたことから、いずれは漁師になりたいと思っていたそうです。祖父の病気をきっかけに、あとを継ごうと戻ってきたといいます。

馬場さんの仕事の年間スケジュールは、かごを使ったタコ漁を中心に、1月から3月20日頃までの刺し網によるケガニ漁、7月からお盆までのウニ漁、11月～12月のアワビ漁と多岐にわたります。ウニ・アワビ獲りはウエットスーツを着ての素潜り。9月～10月はスキューバ潜水で、ウニの増殖溝へのウニ移植作業などを行います。また、密漁監視の当番やアワビ中間養成場の餌当番など、地元漁師の一員としての出番もあり

ます。

この地域で、潜って漁をする男性漁師は50人ほど。馬場さんのように漁船漁業と素潜り漁の両方に携わるのは10数人とのこと。「タコ漁とアワビ漁で、1～2時間しか寝ない日も。それでも、いっぱい獲ったときは、ニコツとなる。短時間で稼げるところが魅力です」と話します。

長男・次男ともに高校卒業後、漁師の道へ。巻き網と定置網の乗組員として働き始めています。馬場さん自身は「先輩たち3人がやっていて、いいなあ」と、新しく大きな船を購入。受け継ぎ、受け継がれる漁師という仕事。馬場さんの夢は、これからも広がりそうです。



宿戸地区では、ウニ漁の季節になると男性は沖側の素潜り、女性は増殖溝周辺でウニ獲りをします。馬場さんの妻も年数回（この年は6回）、地域の女性たちに交じって朝8時～10時まで作業。そのときは馬場さんも必ず浜に出てサポートします。男性は7月後半からお盆の頃まで、例年9回ほど潜ります。



妻が獲ったウニは漁協の検査を経て、共同作業場に運んでウニ剥き作業。馬場さん夫妻と両親に手伝いの人4人を加え、黙々と手を動かします。馬場さんはこの日、朝まで寝てからウニの作業を行い、夜にはまた船を出しました。



11月のある日、定置網の水揚げ作業から帰港した長男と一緒に馬場さんは、地元の中학생を対象としたサケのトバ作り体験の講師を務めていました。子どもたちに漁業についての理解を深めてもらうことも、地域にとって大切な活動の1つです。



ある日の馬場さんの1日 ～タコかご漁(12月の場合)～

23:00 八木港を出航

0:00 漁場に到着

かごを機械で巻き上げて
タコを揚げ
餌の交換作業などをして
再びカゴを設置

3:30 漁場を出発

5:00 八木港に帰港

10時から始まる市場入札時間に
合わせて出荷の準備
船の手入れや、餌詰め作業など

8:00 朝食

18:00 就寝

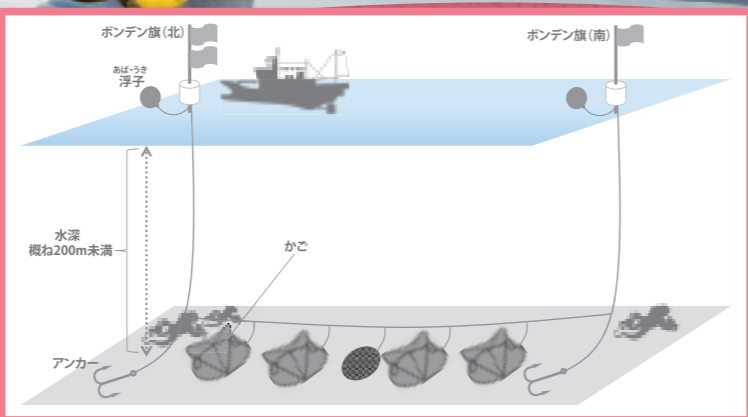
*アワビ漁口開けと重なる時期(11月～12月)は、帰港して口開けの有無を確認し、出航時間を調整します。



漁船業



馬場さんのかご漁は、ミズダコが中心。出かけるのは夜10時～11時頃。市場の時間にあわせて、出航の時間を決めているそうです。父親や息子と一緒に出かけることもあるとのこと。「このあたりのタコは、アワビを食べているから美味しいんです」と笑いますが、アワビも貴重な資源なので難しいところ。タコかご240個を見て、98匹獲れたのが最高。



かご漁業

主な地域 沿岸全域
就業形態 雇用・自営

仕事の概要

餌を入れた多数のかごを1本の幹縄に吊り下げて海底に仕掛け、餌の匂いにつられて入ってきた生物を捕る漁法です。岩手では、タコ類やアナゴ、マキガイ（ツブ）、ケガニなどが漁獲されます。魚の季節変化に合わせた仕立てで操業。魚の多くが夜間に摂餌行動をすることから、日没前に設置して翌朝、引き上げることが多いようです。

必要な資格など

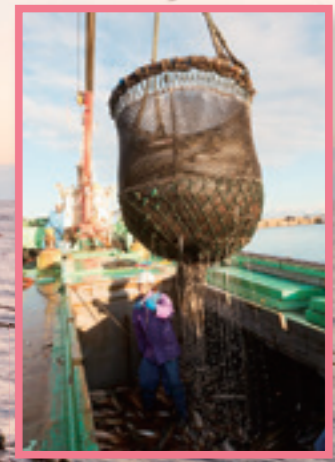
かご漁業には知事の許可が必要。また、各種規制があり、ケガニは期間のほか、大きさや性別も制限されます。資源保護のため、タコ、マガレイ・マコガレイ、アイナメでサイズ制限があり、小さいものは放流します。

馬場さんの年間作業カレンダー

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
毛ガニ漁											
タコかご漁											
			ウニ		ウニ移植			アワビ			

※宮古から北の地域では、毛ガニ漁は刺し網で行う。

定置網漁業



定置網の船に乗っている馬場さんの長男。この日は、まだ暗い5時に八木港から出発しました。漁場での網の引き上げ作業を経て、7時30分頃に帰港。水揚げし、清掃作業などを終えて、漁港の食堂で朝食を食べていました。朝食後は通常、フリータイムとなります。

定置網漁業

主な地域 沿岸全域
就業形態 雇用

仕事の概要

魚群の移動を垣網で遮って誘導し、脱出できない箱網に魚を入れて獲る漁法です。特定の魚を選ぶことはできない「待ち」の漁法である定置網は、リアス海岸の地形に適しています。垣網の水深で大型と小型に分けられます。また、ブリやマグロを狙う夏網、秋サケを狙う秋網、周年網にも分けられます。

経営は個人から法人、漁協など、さまざまな形態があります。数名～数十名の作業員を雇用。作業員は、1隻～数隻の作業船に分乗して作業にあたります。

必要な資格など

作業員の場合は特に資格や許可は必要がなく、漁業経験がなくても受け入れられます。各種機械を使うことがあるので、フォークリフト、クレーン免許（玉掛け技能）があるとよい。

定置網魚種カレンダー

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
秋サケ									秋サケ			
					マグロ							
						ブリ						
			マス類									
イワシ								イワシ				
サバ								サバ				
								スルメイカ				



岩手の 漁業

漁家の暮らしのページでは、ワカメ・コンブの養殖業、かご漁、定置網漁業、採介藻漁業であるウニ漁について紹介しました。ここから、そのほかの主な漁業の概要を紹介します。



延縄・刺網・カゴ・イカ釣りなど
(沿岸全域)

カキ(宮古市～陸前高田市)



ホタテ(野田村～陸前高田市)

ホタテ

主な地域

野田村～陸前高田市(外洋・内湾エリア)

仕事の概要

ホタテは2～3年サイクルで収穫が行われます。岩手県は全国有数の生産地で、貝柱の大きい貝を育てています。

養殖施設は、外洋は延縄式、内湾は筏式。種苗は天然種苗か、ほかの地区から稚貝を購入する方法があります。貝の成長に合わせて、かごの入れ替え、耳吊り作業、養殖施設の浮力調整など、年間を通じて作業を行います。

必要な資格など

養殖を営むには漁協の組合員になること。2級小型船舶操縦士以上。

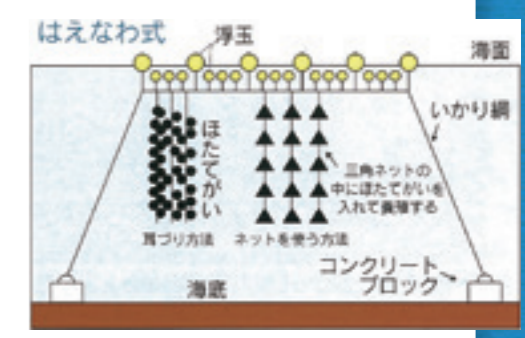
吊り下げ作業などのためフォークリフト、クレーン免許(玉掛け技能)もあったほうがよい。

養殖カレンダー

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
1年目				採苗器投入				稚貝採取			籠交換	
				天然採苗				養成(籠飼育)				
2年目	養成(籠飼育)			耳吊り作業		養成(耳吊飼育)						収穫
3年目	養成(耳吊飼育)						収穫					



ホタテガイ養殖の作業風景





カキ

主な地域

宮古市～陸前高田市 (内湾エリア)

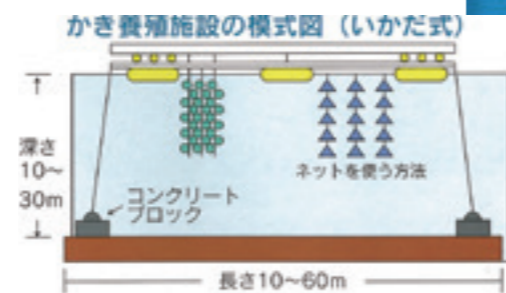
仕事の概要

カキは2～3年サイクルで収穫が行われます。岩手県は大型の生食カキの比率が高いのが特徴です。

主に、宮城県から稚貝が付着したホタテ貝(原盤)を冬場に搬入して垂下ロープに挟み込み、養殖が始まります。出荷前の夏場、雑物を除去して成長を促すため温湯処理を行ったり、地域によっては原盤から貝を外してカゴ養殖や耳吊り養殖にして大型に育てたりするなど、1年を通じて作業があります。



カキ養殖の作業風景



必要な資格など

養殖を営むには漁協の組合員になること。2級小型船舶操縦士以上。吊り下げ作業などのためフォークリフト、クレーン免許(玉掛け技能)もあったほうがよい。生カキを出荷するには、食品衛生法に基づく営業許可が必要です。

養殖カレンダー

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
1年目								天然採苗		抑制	種苗購入	
2年目	抑制	種苗購入		原盤調整 挟み込み	養成			温湯駆除	養成	株分け (殻付き)	養成	収穫(1年子)
3年目								温湯駆除	養成			
4年目												収穫(2年子)



ホヤ

主な地域

野田村～陸前高田市 (外洋・内湾エリア)

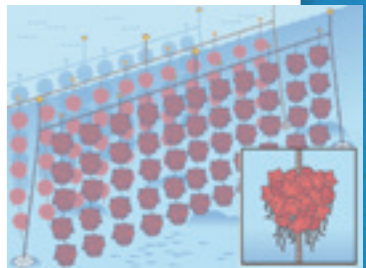
仕事の概要

ホヤは3～4年サイクルで収穫します。養殖期間は長いのですが、管理の手間が少なく、ほかの養殖との複合で行われます。岩手県は宮城県に次いで、全国2位の生産量を誇ります。県北の洋野町地域では潜水による天然ホヤの水揚げもあります。

種苗を入手するか、人工採苗種苗を用いて、2年目秋に種糸を養殖垂下ロープに巻き込み、本養殖を始めます。出荷は3～4年目。それまでの間、付着物の除去を行います。

必要な資格など

養殖を営むには漁協の組合員になること。2級小型船舶操縦士以上。吊り下げ作業などのためフォークリフト、クレーン免許(玉掛け技能)もあったほうがよい。



養殖カレンダー

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
1年目												人工採苗
2年目				沖出し・保苗					挟み込み			本養成
3年目												
4年目												収穫

サーモン

主な地域

久慈湾・宮古湾・船越湾・釜石湾ほか



仕事の概要

秋サケの記録的な不漁と全国的なサーモンブームから、養殖メーカーや大学などの指導・支援を受けて、4つの湾で試験養殖が行われています。

養殖魚は、ギンザケとトラウトサーモン(ニジマス)、サクラマスです。11月頃、海面に設置した生簀に稚魚を入れ、環境への影響が少ないように配合飼料を与えて育てます。2キロ前後まで育て、翌年5月～7月に出荷します。

三陸はサケマスの生育に適した海域でもあり、品質の良い魚ができています。今後は漁協の自営漁業などとして、本格的なサーモン養殖が始まる予定です。





サンマ棒受け網

主な地域

北太平洋～三陸沖

就業形態

雇用

仕事の概要

三陸沖での漁期は10月～11月頃。

漁期は9月～12月頃。千島列島沖で操業が始まり、南下する魚群を追って11月頃まで続きます。漁場が近い場合は夕方に出漁し、夜間に操業します。光に集まるサンマの習性を利用して、すくい網に誘導して漁獲します。乗組員は10トンクラスの船で数人です。

漁期初めは釧路周辺を拠点に操業を繰り返すこともあるので、数日～数週間、地元を離れることも。近年、資源の減少により沖合での操業時間が長くなっています。

サンマ漁以外の時期は、艀装を交換して、イサダ漁やイカ釣りなどを行っています。近年のサンマ不漁を受け、知事の特別な許可を受けて試験的にマイワシ棒受け網を始めた船もあります。

必要な資格など

漁期に合わせた季節雇用が多く、作業員の場合は、特に資格や漁業経験がなくても受け入れられます。

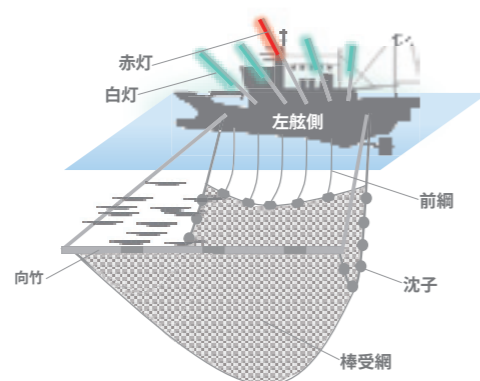
操船を行う場合は、1級小型船舶操縦士の免許のほか、2級海上特殊無線技士免許が必要。

自ら営む場合は、使用する漁船の総トン数10トン未満は知事許可、10トン以上は農林水産大臣の許可が必要です。

漁期カレンダー

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
通年										サンマ漁	三陸沖	
		イサダ漁				イカ釣り						

※サンマ漁以外の漁も行う



イカ釣り

主な地域

三陸海域、日本海～北海道

就業形態

雇用、独立

仕事の概要

三陸海域の漁期は6月～1月頃。

魚群を求めて日本海側から北海道と広範囲に移動する中型イカ釣り船が主体です。主な対象はスルメイカで、夜間、餌を探して上昇してくる習性を利用し、光と疑似餌で釣り上げます。自動イカ釣り機で釣り上げ、船上で釣ったイカを水槽に投入する作業や箱詰め作業をします。

夕方出漁して夜間に操業しますが、県北地域では昼間に海底付近のイカを釣る昼釣りが行われています。

イカ釣り以外の時期は、艀装を交換して、イサダ漁や延縄などを行っています。

必要な資格など

作業員の場合は、特に資格や漁業経験がなくても受け入れられます。

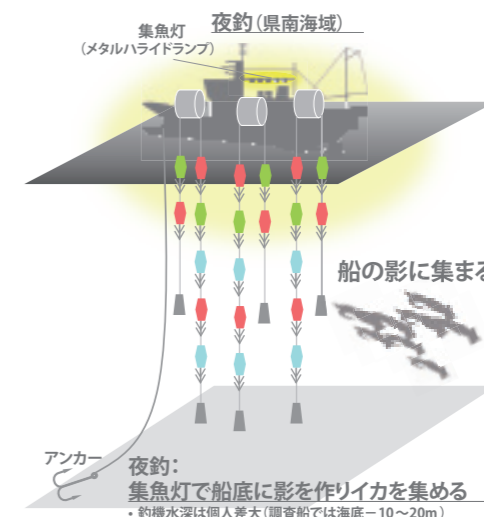
操船を行う場合は、1級小型船舶操縦士の免許のほか、2級海上特殊無線技士免許が必要。

自ら営む場合は、使用する漁船の総トン数5トン以上30トン未満は知事許可、30トン以上は農林水産大臣の許可が必要です。

漁期カレンダー

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
通年												
		イカ釣り								イカ釣り		
			イサダ漁									

※イカ釣り以外の漁も行う





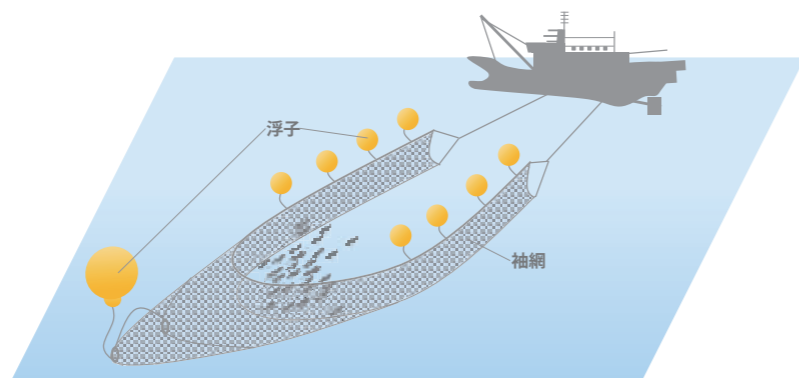
イサダ漁

主な地域

沿岸全域 (外洋エリア)

就業形態

雇用
(漁期に合わせた季節雇用が多い)



仕事の概要

イサダ漁は、三陸の春を代表する漁で、漁期は2月～4月頃。イサダ漁を行う岩手県から茨城県の関係者で毎年、操業時期や漁獲枠を決めてから行います。

冷たい親潮に乗って三陸沖に来遊するイサダ(ツノナシオキアミ)を漁獲するもので、目の小さい網を船尾から引く「船びき網」と、船首から棒受け網を入れてすくい上げる「すくい網」の2種類で操業。乗組員は5～6名前後です。出漁は日の出前頃で、午後2時頃まで作業を行います。

イサダが水面近くに群れているところを狙って漁獲し、ポンプを使ってコンテナに入れ、鮮度が落ちないうちに市場に水揚げします。主に養殖魚の餌用として冷凍しますが、近年はその機能が注目され、食品やサプリメントへと利用が広がっています。

イサダ漁以外の時期は、艀装を交換して、サンマ棒受け網やイカ釣りなどを行っています。



必要な資格など

作業員の場合は特に資格は必要なく、漁業経験がなくても受け入れられます。
操船を行う場合は、1級小型船舶操縦士の免許のほか、2級海上特殊無線技士免許が必要。
自ら営む場合は知事許可が必要です。



延縄漁業

主な地域

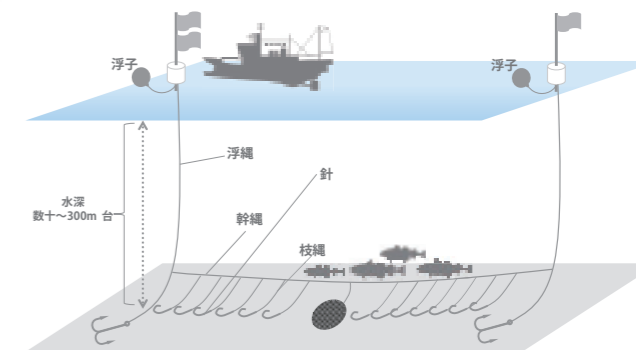
沿岸全域

就業形態

雇用、独立

仕事の概要

1本の縄に多数の釣り縄を吊り下げて魚を釣るもので、対象とする魚によって浮延縄と底延縄があります。魚の季節による変化を踏まえ、対象魚に合わせた仕立てや餌で操業します。岩手では、浮延縄でサケ、底延縄ではタラ類やヒラメ、カレイ、ソイ類などを漁獲しています。魚が夜間に摂餌行動をすることから、底延縄では日没前に設置し、翌朝、引き上げることが多いようです。



必要な資格など

対象となる魚種により、許可が必要な場合がある。
操船を行う場合は、1級小型船舶操縦士の免許のほか、2級海上特殊無線技士免許が必要です。

刺し網漁業

主な地域

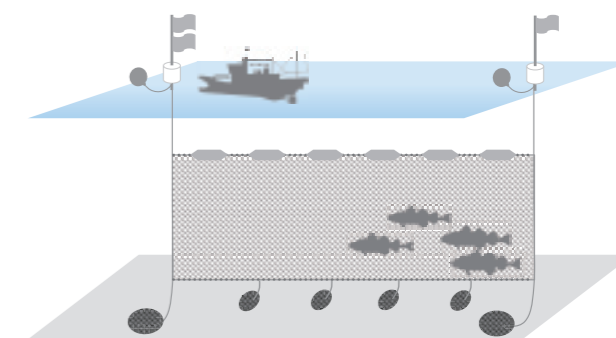
全域

就業形態

雇用、独立

仕事の概要

目的とする水産生物を帯状の網地の網目に刺し込ませたり、網地に絡ませたりして漁獲する漁法。岩手県では重りで網を固定する固定式刺し網が行われていて、タラ類やヒラメ、カレイ、ソイ類、ケガニなどが漁獲されています。カレイは秋から春、ヒラメは春から秋に漁獲。魚の季節変化を踏まえ、対象魚に合わせた仕立てで操業します。魚の摂餌行動に合わせて日没前に設置し、翌朝、引き上げることが多いようです。



必要な資格など

対象となる魚種や区域により、共同漁業権の行使者となるか、知事の許可が必要。
操船を行う場合は、1級小型船舶操縦士の免許のほか、2級海上特殊無線技士免許が必要です。



アワビ

主な地域

県内全域 (主に外洋性漁場)



仕事の概要

漁獲は箱めがねを使ったカギ採りと素潜りにより行われ、素潜りは洋野町で行われています。11月～2月の漁期中に漁協が海の状況や資源の状況を踏まえて、作業時間や場所などを決め、年5～10回程度、漁を行います。

岩手県はアワビの生産量全国1位で、高品質な干アワビになることから高い値が付きます。そこで、人工種苗放流、漁場造成、餌料海藻対策、密漁監視など、官民一体となって資源の増大に取り組んでいます。

必要な資格など

漁協の組合員になることが必要。アワビ増産のため、種苗放流や漁場管理の負担が求められます。

ウニ

主な地域

県内全域



仕事の概要

漁獲はカギ採りと素潜りにより、素潜りは久慈市以北で行われています。漁期はウニの産卵前の5月～8月に、地元の漁協が作業時間、漁獲方法、場所を決めて開口します。漁期終了後には、生育を促すための移植作業が行われる地域もあります。

岩手県のウニ生産量は、北海道に次いで全国2位。アワビに次ぐ重要な資源で、ウニも人工種苗放流、漁場造成、餌料海藻対策、密漁監視など、官民一体となって資源の増大に取り組んでいます。

必要な資格など

漁協の組合員になることが必要。ウニ増産のため、ウニの移植、給餌などの漁場管理経費負担や共同作業などが求められます。

生ウニを製造するには、徹底した衛生管理対策が必要です。

そのほかの採介藻漁業

アワビ・ウニのほか、ナマコ漁、砂浜域でのアサリ・ホッキ漁、春先の大潮に採取する天然フノリやマツモ、夏前後に採取する天然ワカメ・コンブなどがあります。これらも、地元漁協が作業日を決めて行います。

漁師は「豊かな食」を支えている

魚を獲り、貝類や海藻を育て、良い状態で出荷する。……と、その先では、漁師をリスペクトしてやまない料理人が、腕を振るって美味しい料理を作り、三陸の海の幸のファンを増やしてくれています。四季を味わう豊かな暮らしに、漁師という仕事は欠かせません。



Roacre Ascia (ロカーレアーシャ) / 盛岡市

シェフ 駒場利行さん

三陸の魚介類からは、四季を感じることができます。雨の日も風の日も、雪の日も、大震災の被害を受けたあとも、養殖の漁家の人たちは育ててくれて、船に乗る漁師さんたちは漁に行ってくれる。感謝しかありません。

山田産カキのクリームパスタ



和の膳 みや川 / 釜石市

店主 宮川徹さん

懇意にしている漁師さんの魚に対する向き合い方が素晴らしいんです。仕事の苦労もわかっているので、調理をするときはいつも真剣です。地元の魚に漁師の気持ちもせて、美味しいと喜ばれる料理を提供していきます。

ドントコソフライ



漁師になるための最初の1歩を後押し いわて水産アカデミーで学ぼう

「いわて水産アカデミー」は、漁業に興味はあるが経験や知識がないという就業希望者をサポートする研修機関です。県漁業関係団体、県団体及び各市町村の漁業就業者育成協議会などと連携し、漁業を志す人たちが地域に定着できるよう支援をしています。また、すでに就労しているが、知識や技術を習得して経営の安定・拡大を目指したいという漁業者も受け入れています。

アカデミーでは、4月に約2週間の「集合研修Ⅰ」を開催。その後、5月から翌年3月までの間、漁業現場での「実践研修」、高度な知識の習得や資格取得のため隔月で4日間程度の「集合研修Ⅱ」を実施します。また、実践研修の間には地域イベントの参加や伝統文化体験を通じて地域住民との交流を図ってもらいます。

いわて水産アカデミーの研修概要 (令和3年度募集)

- 募集資格 / 入講時点で50歳以下であって、県内に定住して漁業に就業される方
- 定員 / 10名
- 研修期間 / 令和3年4月12日から令和4年3月17日まで (募集開始時期10月～)
- 研修場所 / 集合研修 岩手県水産技術センター
実践研修 研修生が将来定住を希望する市町村
- 研修費用 / 118,800円 (研修期間の生活費や作業用衣類などは自己負担)
- 資格取得 / 二級小型船舶操縦士、第二級海上特殊無線技士、その他
- 支援制度 / 国の次世代人材投資(準備型) 事業や市町村の漁業就業支援制度が活用できる場合がある

いわて水産アカデミーの年間スケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
集合研修 ○は日数 (228時間)	集合研修 Ⅰ⑩	集合研修 Ⅱ④		集合研修 Ⅱ④		集合研修 Ⅱ④		集合研修 Ⅱ④		集合研修 Ⅱ④		集合研修 Ⅱ④
実践研修 (990時間)	実践研修(地域交流活動)											

[集合研修Ⅰ]

- 水産業の基礎的な知識 (県の施策、漁業関係法令など) 及び技術 (ロープワーク、網縫い) の研修
- 養殖業、魚市場、ふ化放流事業、栽培漁業などの現場見学・体験
- 先輩漁業者との交流

[集合研修Ⅱ]

- 高度な知識 (ICT、6次産業化、水産加工、漁業経営)、より難易度の高い技術の研修
- 資格 (二級小型船舶操縦士免許、第二級海上特殊無線技士免許) の取得

アカデミーの1年

入講式

第1回 いわて水産アカデミー開講式



開講式

集合研修



集合研修Ⅰ ロープワーク



集合研修Ⅱ 水産加工実習

実践研修



実践研修 定置網漁業



実践研修 カキの養殖作業

地域交流活動



サケのトバ作り講習

修了生インタビュー

藤倉結城

28歳

いわて水産アカデミー第1期研修生
(平成31年4月開講～令和2年3月)



「怒られてもいいからやってみよう」という気持ちで作業に取り組んだ

漁業に関係のない家庭で育ちましたが、縁あって高校生の頃、現在お世話になっている釜石市の東部定置漁業生産組合の会長から「うちに来ないか」と声をかけていただきました。それでも一度、地元を離れてみたくて、卒業後は海上自衛隊へ。しかし、それからも誘っていただいたので、最終的に決断してUターンしました。

「県関係の人との交流も大事だから」と会長が勧めてくれて、いわて水産アカデミーで勉強することに。開講直後の研修では、ロープワークや網の修理など、基礎的な技術を身に付けることができました。何も知らずに船に乗っても全く動けないと思うので、アカデミーで最初に学べたことは良かったと思います。その後も働きな

がら研修を続けました。

船に乗って経験を積んだ先輩たちの動きを見ていると、「すげえなあ」と思うことばかりです。アイコンタクトもなしに機敏に動いていく様子には尊敬しかありません。そうした中で「自分はまだ1年目だし、怒られてもいいからやってみよう」という気持ちで作業に取り組むうちに、少しずつ見えてくるようになってきました。今は、積極的に動くように心がけています。

将来は組合員になって、自分でもできることを増やしたい。独立するのではなく、ここにいて東部定置を盛り上げていきたいという考えを持っています。生産組合という組織を会社として運営し、大きくしていく力になれると思います。

岩手県で漁業を仕事にするにあたって 知っておきたい就業パターン・相談先

岩手で漁業に就業するには、おおむね3つのパターンがあります。

- ① 養殖業で自立を目指す
- ② 沿岸漁船漁業で自立を目指す
- ③ 定置網、漁業会社で雇用され幹部を目指す

そのパターンは下の図に示しているとおりで、一人前になるには4～5年程度かかります。その期間にはそれぞれクリアすべきハードルがあり、クリアするためにはその段階に応じた実績と資金、資材が必要です。それを覚悟したうえで就業を考える必要があります、これは全国共通のハードルです。

最初の収入源となるアワビ、ウニなどの採介藻漁業を

はじめ、養殖業、漁業権内での刺し網、かご漁などの漁業を営むには、漁協の組合員となる必要があります、①漁業操業実績 ②漁協管内の居住 ③出資金の負担—により、漁協の資格審査委員会を経て加入できます。

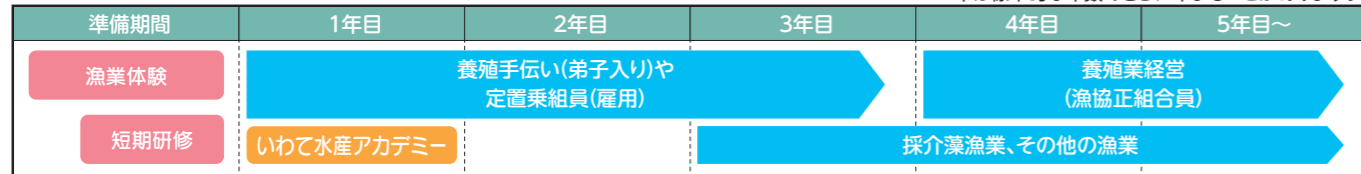
なお、漁協組合員となることで、漁業共済の加入、漁業資材や種苗の購入、水揚げ物の委託販売、各種資金の借入れ、漁業経営の指導など、自立に向けたさまざまな支援を受けることができます。

また、漁協の支援のほか、各沿岸市町村などに漁業就業や定住に向けた支援制度があり、それぞれに相談窓口があります(右ページ)。岩手の海岸線は長く、各地区で漁村の環境や漁業種類が違います。自分の適性、やりたいことを考えて窓口相談してください。

漁業就業までのパターン

① 養殖業で自立を目指す場合

※年は標準的な年数でさらに早まる場合があります。



●ステップアップへのハードル●

準備期間～アカデミー／適性の判断、研修にかかる自己負担、居住場所、生活費の準備

1年目～／居住場所(漁協管内)、生活費の補完(手伝いだけでは足りない)、漁業就業日数確保(年間90日以上)

3年目～／准組合員取得(実績、出資金)、船外機船や漁具の調達(購入、中古)

4年目～／正組合員取得(実績、出資金、漁業権行使料等)、養殖施設や漁場の確保(継承)、種苗や養殖資材の調達、水揚現金化までの運転資金(ワカメ1年、カキホタテ2年)

② 沿岸漁船漁業で自立を目指す場合

※年は標準的な年数でさらに早まる場合があります。



●ステップアップへのハードル●

準備期間～アカデミー／適性の判断、研修にかかる自己負担、居住場所、生活費の準備

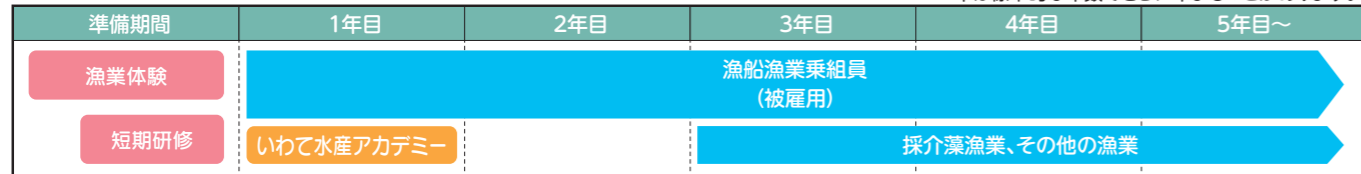
1年目～／居住場所(漁協管内)、生活費の補完(手伝いだけでは足りない)、漁業就業日数確保(年間90日以上)

3年目～／准組合員取得(実績、出資金)、漁船や漁具の調達(購入、中古)、漁業許可の手続(漁法、漁場別)

4年目～／正組合員取得(実績、出資金、漁業権行使料等)、漁船や漁場、漁業許可の確保(継承)、水揚現金化までの運転資金

③ 定置網、漁船会社で雇用され幹部を目指す場合

※年は標準的な年数でさらに早まる場合があります。



●ステップアップへのハードル●

準備期間～アカデミー／適性の判断、研修にかかる自己負担、居住場所、生活費の準備

1年目～／居住場所(漁協管内)、生活費の補完(初任給は高くない)、漁業就業日数確保(年間90日以上)

3年目～／准組合員取得(実績、出資金)、休漁期間中の生活資金の確保(兼業先の確保)

4年目～／正組合員取得(実績、出資金)、休漁期間中の生活資金の確保(兼業先の確保)

岩手県内の漁業就業に関する問い合わせ先一覧 県内の全沿岸市町村に漁業就業等に関する窓口があります。

	機関名	問い合わせ先	主な漁業種類
市町村	洋野町漁業担い手対策協議会	洋野町水産商工課 ☎0194-65-5916	漁船漁業、採介藻漁業、定置網
	久慈市漁業就業者育成協議会	久慈市産業経済部林業水産課漁政係 ☎0194-52-2122	漁船漁業、採介藻漁業、定置網
	野田村漁業担い手育成協議会	野田村産業振興課 ☎0194-78-2926	養殖業(海藻、ホタテ)、定置網、漁船漁業
	普代村漁業就業者支援協議会	普代村建設水産課 ☎0194-35-2116	養殖業(海藻)、定置網、漁船漁業
	田野畑村漁業就業者育成協議会	田野畑村産業振興課 ☎0194-34-2111(代表)	養殖業(海藻)、定置網、漁船漁業
	岩泉町漁業就業者育成協議会	岩泉町農林水産課林業水産室 ☎0194-22-2111(内線533)	養殖業(海藻)、定置網、漁船漁業
	宮古市漁業就業者育成協議会	宮古市産業振興部水産課 ☎0193-68-9099(直通)	養殖業(海藻、ホタテ)、定置網、漁船漁業
	山田町漁業就業者育成協議会	山田町水産商工課水産振興係 ☎0193-82-3111(内線222)	養殖業(カキ、ホタテ、海藻)、定置網、漁船漁業
	大槌町水産振興会	大槌町産業振興課 ☎0193-42-8717	養殖業(カキ、ホタテ、海藻)、定置網、漁船漁業
	釜石市漁業担い手育成プロジェクトチーム	釜石市産業振興部水産課水産振興係 ☎0193-27-8427	養殖業(カキ、ホタテ、海藻)、定置網、漁船漁業
岩手県	大船渡市漁業就業者確保育成協議会	大船渡市農林水産部水産課 ☎0192-27-3111(内線374)	養殖業(カキ、ホタテ、海藻)、定置網、漁船漁業
	陸前高田市漁業就業者育成協議会	陸前高田市地域振興部水産課 ☎0192-54-2111(内線342)	養殖業(カキ、ホタテ、海藻)、定置網、漁船漁業
	岩手県農林水産部水産振興課	☎019-629-5806	
	岩手県東北広域振興局水産部	☎0194-53-4985(洋野町～普代村エリア)	
	岩手県沿岸広域振興局水産部 宮古水産振興センター	☎0193-64-2216(田野畑村～山田町エリア)	
	岩手県沿岸広域振興局水産部	☎0193-25-2766(大槌町～釜石市エリア)	
	岩手県沿岸広域振興局水産部 大船渡水産振興センター	☎0192-27-9915(大船渡市～陸前高田市エリア)	
	岩手県水産技術センター	☎0193-26-7911(代表)	
	漁業団体	岩手県漁業協同組合連合会 ☎019-623-8141(代表)	
	研修機関	いわて水産アカデミー ☎019-629-5806	
公益機関	公益財団法人岩手県漁業担い手育成基金 ☎019-626-3063		

困ったとき、支援相談をしたいとき

- 資金の融資を受けたい→漁協(信漁連支店)
- 漁業共済、漁船保険、各種共済に加入したい→漁協
- 漁船登録、漁業許可などの許認可を受けたい→漁協、県広域振興局水産部・水産振興センター
- 副業で遊漁船業を営みたい→漁協、県広域振興局水産部・水産振興センター、岩手県遊漁船業協会
- 副業で遊覧船をしたい→漁協、国土交通省岩手運輸支局宮古庁舎
- 漁業従事者を募集したい→漁協、ハローワーク、(公財)岩手県漁業担い手育成基金
- 漁業技術や新しい知識を学びたい→県広域振興局水産部・水産振興センター、県水産技術センター

漁協組合員になるということ

アワビ、ウニなどの採介藻漁業をはじめ、養殖業、漁業権内での刺し網、かごなどの漁業を営むには、漁協の組合員になることが求められます。①漁業操業実績 ②漁協管内の居住 ③出資金の負担を満たすことにより、漁協の資格審査委員会、理事会承認を経て加入できます。

なお、漁協の組合員になると、漁業共済への加入、漁業資材や種苗の購入、水揚げ物の委託販売、各種資金の借入れ、漁業経営の指導など、自立に向けたさまざまな支援を受けることができます。